

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-151	12-016	慶應義塾大学
題名 (原題/訳)		
Alcohol affects the emotional modulation of cognitive control: an event-related brain potential study. アルコールは認知的コントロールの感情的な調節に影響を及ぼす：事象関連脳電位検査		
執筆者		
Euser AS, Franken IH.		
掲載誌		
Psychopharmacology (Berl). 2012 Aug;222(3):459-76. doi:		
キーワード		
事象関連脳電位検査、認知コントロール、		
要 旨		
目的： 本研究はアルコールが認知的コントロールとその下にある神経機構の感情的な調節に影響を及ぼすか否か検討することを目的とする。このことは、アルコールに酔った個人でしばしばみられる社会的に不適応な習性の理解に重要である。		
方法： 適度な用量のアルコール (0.65g/kg アルコール; n=32) またはアルコールを含まないプラセボ飲料 (n=32) の投与を受けた男性の参加者で事象関連電位 (ERPs) を記録した。「目標とする」感情的な表情 (陰悪な、幸福な、中性の) の図に対しては反応 (Go 試験) を、それとは異なる「目標外」の図には反応抑制 (No-Go 試験) するという感情的な Go/No-Go 作業を遂行して ERPs は記録した。		
結果： 全体として、N200 と P300 振幅は、Go 試験に比べて No-Go 試験で強化された。興味深いことに、アルコールに酔った個人は、すべての情緒的状态において対照群に比べてより大きい No-Go N200 振幅を示し、作業能力が低下 (すなわち、より多くのエラー) した。特に怒った顔面に応答する時にその効果は顕著であった。怒りおよび幸せな感情表現の後にだけ、アルコール群の P300 振幅は Go 試験と No-Go 試験で有意に減弱した。		
結論： これらの結果は、アルコール酔った個人が反応を調整するために対照群より早期の抑制プロセスの間により多くの努力をして認知資源を活性化する必要があることを示唆する。さらに、アルコールは認知的統制の後期に、反応抑制と反応遂行の感情的な調節に影響を及ぼした。アルコールは感情的な反応を弱めた。そして、それは認知的統制のために注意をする資源の利用を制限する可能性がある。しかし、これらの所見はアルコール酔った個人が感情的に、または、社会的に挑戦的な状況に直面するとき、コントロールの欠如の基礎となる可能性がある。		